

新学術創成研究科 総合知創出科学専攻
【授与する学位】修士（学術）

大学（大学院）の目的	学類（研究科）の教育研究上の目的
金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。	新学術創成研究科は、革新的かつ新しい学問・産業の分野・領域の創成につながる異分野融合的な研究による成果や社会との往還を基盤に大学院教育を展開することで新たな学術の創成に寄与し、学際性・総合性・国際性を有する研究者や産業人等を養成することを目的とする。総合知創出科学専攻修士課程は、広い視野と精深な学識を有して社会の変容を的確に見据え、多様な知を集積して総合知の創出を探求し、人間や社会の総合的理解及び課題解決に資する総合知の社会展開に貢献できる人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】
総合知の社会展開に貢献できる人材となるために、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することを課す。その成果として、本専攻が掲げる人材養成目的及び金沢大学大学院〈グローバル〉スタンダード（KUGS）を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した学生に「修士（学術）」の学位を授与する。	修了時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できるよう、文理融合から総合知を広域的に見据えて体系的で網羅型の教育課程を編成する。「広い視野と精深な学識を有して社会の変容を的確に見据え、多様な知を集積して総合知の創出を探求し、人間や社会の総合的理解及び課題解決に資する総合知の社会展開に貢献できる人材」を養成するため、以下の授業科目群を配置するとともに、志向に応じた単位修得に資する自主選択枠を設定する。 1. 金沢大学大学院〈グローバル〉スタンダードを踏まえ、知見の深化により課題解決力を培うGS基盤科目 2. 3つの学修コアで、基盤的な学際性を涵養して多様な知の理解や融合を進展させる専門基盤科目 3. 社会との往還を注視し、総合知の創出に資する実践や知見を積層化させる総合知積層科目 4. 幅広い総合性の上に基盤的な国際性を備え、知を解析して学問や産業に展開する総合知展開科目	学士課程等で修得してきた分野の基盤的な専門知識に加え、あらゆる分野の知見の総合的な活用に関心を有し、多様な知を理解・融合して総合知の社会展開に貢献したい者を受け入れる。
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
1. 未来課題の探索や多様な知の集積によりソリューションを発想できる能力 2. 持続可能な未来を描き、デジタル社会の形成に向けて柔軟性・実効性あるプランを提案できる能力 3. 文理融合やデジタルコンピテンスの動向を知り、総合知で着実にイノベーションを進展できる能力 4. 国や組織を超えて多様な背景や知識を持つ他者と協働し、総合知を構想や計画の推進に展開できる能力	1. 教育内容 ①GS基盤科目群では、創造的な視点と粘り強い交渉力、強い統率力と確かな実践力をもって、人類の未来を切り拓く使命に果敢に挑戦する高度専門人材を養成する。 ②専門基盤科目群では、基盤的な学際性を涵養して多様な知の理解や融合を総合知として進展させる。変革先導学修コア、価値デザイン学修コア及び情報創成学修コアの3つの区分で構成し、その学修コアに関連する科目を配置する。学修コアを、「学生が学修の軸足を置く領域」すなわち「学生が自己の教育研究の中心を置く領域」と位置付ける。 ③総合知積層科目群では、専門基盤科目で修得した知識を基に、社会との往還を踏まえ、文献講読にとどまらず、新しい知見の紹介やディスカッション等、アクティブラーニング型の学修により、総合知の創出に資する実践や知見を積層化する科目を配置する。 ④総合知展開科目群では、幅広い総合性の上に基盤的な国際性を備え、知を解析して学問や産業に展開する科目を配置する。学生に対するプレゼンテーションの実践や共通する知識基盤の獲得、個別の研究指導等を主な内容とする科目群である。 2. 教育方法 全体設計としては、履修活動の中心領域である専門基盤科目を、変革先導学修コア、価値デザイン学修コア、情報創成学修コアの3つに区分することにより、学生の研究課題の進捗にあわせた体系的な授業科目の履修を促すとともに、ディプロマ・ポリシーに定める能力を身に付けさせることを担保する。学生は自ら選択した軸足を置く1つの学修コアを中心に授業を履修し、他の2つのコアからも単位を修得することで、柔軟なコースワーク、多様性のある個別最適型で共同的な学びにより総合知の多様性を学び、柔軟で高度な学修活動を推進する。研究活動は、教員と研究のフィールドである研究室を教教分離の融合研究域に配置し、学生は本専攻のすべての専任教員から指導教員1名を選択し、高度な研究活動で総合知の創出を学び、全体最適環境・社会の構造発展、持続可能な人間・自然の基礎進化を基に、学際性・総合性・国際性を踏まえた研究を推進する。 また、高度情報専門基盤特別プログラムを設け、デジタル技術を使いこなす視点と、デジタルだからこその視点から総合知を多様な業界で展開する高度情報専門人材を養成する教育を行う。このプログラムを必修化することにより、高度情報専門人材を着実に輩出する。プログラムを実施するにあたり、大多数の授業科目が、分野を問わず、データサイエンスやデジタル技術に関する内容を盛り込んでいる。また、研究指導についても、データサイエンス、デジタル技術の活用を念頭に置いた指導を行う。	学士課程等で修得してきた分野の基盤的な専門知識に加え、あらゆる分野の知見の総合的な活用に関心を有し、多様な知を理解・融合して総合知の社会展開に貢献したい者を受け入れる。
	【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】
	(1) 学修成果の評価については、シラバス及び入学年度毎に発行する履修案内に記載する。 (2) 論文、特定の課題についての研究の成果の審査に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。	入学者選抜は、一般選抜及び多様な人材を受け入れるための社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を実施する。 小論文、学力検査（出願時に提出を課す書類、口頭発表及び口述試験）、英語外部試験スコア、学業成績証明書等に基づき行う。
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】
		入学時に必要な、知的、道徳的、応用的能力の展開が可能であることを前提として、専攻分野は元より、英語やデータサイエンス等に関する知見や理解を深め、到達度をより高めておくことが重要。